

ひょうご

425

MIN - IREN

2025.9.10

合併号



被爆80年
今こそ、**国民平和大行進**
平和の声をとどけよう
あなたの一歩が、誰かの明日をまもる

兵庫県内:7/7(月)~7/16(水)





事業所・職場紹介

輝 いて います！

いつでも どこでも だれもが 安心・安全にかかれる歯科医療

神戸医療生活協同組合 生協なでしこ歯科 事務長 渡田 正司

2005年5月、生協なでしこ歯科は、3階建ての建物で16台の診療チェアー（現在は、18チェアー）を持つ『成人歯科』『小児障がい者歯科』の2つの診療科からなる、大規模の歯科診療所として開設されました。神戸医療生協の歯科としては、協同歯科（1981年）、きたすま歯科（1985年）いたやど歯科（1999年）に続き4番目となります。場所は市営地下鉄伊川谷駅から徒歩3分で、とても便利な場所です。伊川谷駅周辺は、農地が多くなでしこ歯科の場所も、もともと水田だった所を埋め立てて造られました。

設立当初は、近隣地域に組合員も少なく患者確保に苦労し、な



かなか黒字にならない時期が続きましたが、現在では1日約100名が来院し黒字も確保しています。

理念は、「いつでも どこでも だれもが安心してかかれる歯科医療」です。協同歯科で取り組んできた小児障がい者歯科を引き継ぎ、障がいがある方でも安心してかかれる歯科を目指しています。ベット型のストレッチャーでも乗ることが出来るエレベーターや、障がい者用の大きなトイレ、障がい者が乗り降りしやすいように、1階には専用駐車場も設置しています。また、通院困難な方の診療を行うため、障がい者施設での往診も行っています。

開設後すぐに歯列矯正も開始し、歯並びの気になる患者様へ

の対応も可能になりました。今年、マウスピースでの矯正にも新たに取り組むことにしており、ワイヤー矯正することに悩んでいる方にも対応します。



▲保育スタッフによる
お子様の無料一時保育実施。
トイレにはオムツ替え台もあります

歯ぎしりや睡眠時無呼吸症候群のマウスピースは保険で対応し、スポーツ用マウスピースは自費治療となります。その他の自費治療では、インプラントやホームホワイトニングに取り組んでいます（なおオフィスホワイトニングは取り扱いしていません）。

これからも、「いつでも どこでも だれもが安心してかかれる歯科」を目指し職員一同励んでいきたいと思っています。



▲骨の位置や角度まで精密に撮影、
インプラントや親知らずの抜歯など
外科的処置も的確に対応

事業所の窓から～歴史と地域紹介～

神戸医療生活協同組合

地域と歩んだ65年

22

安心して暮らせる
まちづくりをめざして

地域に根づく医療生協

この神戸の地で生まれた医療生協は、2026年2月に65周年を迎えます。当時、港湾労働者、町工場で働く人々、そして差別と貧困に苦しむ人たちが多く住んでいました。さらに、病気では肺結核に罹る人が多かったです。元理事長で創立に参加した久留島義忠は、comcom新書「医療生協の先駆者たち」の中で、「協同診療所は貧乏人の味方や。貧乏人でも何でも相談にのってくれるし、それから若い学生が協力者で来るから頼んだら来てくれというのがずっと広がっていった。医療生協をつくったときにその人たちが一遍に組合員になってくれた」と語っていました。また、「協同組合のあるべき姿として、日常活動で患者自身がわずかでも金を出し合う。そして予防医学としての健康を管理する班会議をやっている。病気になったら安心して医療生協に来る」とも語っています。

協同病院は、往診を非常に親切にすることで好評でした。よい医療を目指すとりくみと重度結核療養者に対する訪問に力を入れていました。これらの活動は、板宿病院、番町診療所に引き継がれます。1981年には、協同歯科、1985年にはきたすま歯科ができました。歯科では、歯科往診や小児歯科・障がい者歯科も



▲1948年協同診療所開設

開設し、患者の立場にたった診療活動は現在にもつながっています。医療生協として、板宿診療所の移転や神戸協同病院新設などを見据えて、1961年に大衆組織である「生活協同組合」にすることになりましたが、生協として認可されるまでは長い道のりがありました。1963年に神戸協同病院と番町診療所が開設されました。

▲阪神・淡路大震災
「大地震なんかに負けへんでの会」活動

医療生協のこれから

求められることが多様になっている時代に、民医連・医療生協の存在価値は何なのか考えていくことが必要になっていると思います。それを踏まえながら、

これからも組合員と職員が一緒になって歩いていけるような医療生協であればと思います。

▲第1回健康まつり
長田区立大橋中学校にて1000人参加

▲1993年ひまわり診療所開設

原水禁世界大会in広島&長崎

被爆80年 被爆者の声を聴き、世界とともに核なき未来へ

2025年8月4日(月)～6日(水)に広島、8月7日(木)～9日(土)に長崎で開催された原水爆禁止世界大会に、兵庫民医連からは総勢46名(広島28名・長崎18名)が参加しました。今年は、広島・長崎への原爆投下から被爆80年という節目の年。その意義をふまえ今回は広島・長崎の両会場に代表団を派遣。例年以上に多くの代表が参加しました。また、兵庫県全体では、他団体も含めて現地198名(広島143名・長崎43名・国際会議12名)、オンライン約150名が参加、全体ではのべ1万2930人の参加という大きな大会となりました。

被爆の実相に触れ、平和の尊さと核廃絶の重要性を改めて胸に刻んだ参加者たち。今後も平和への取り組みを広げていきます。

広島

「被爆の実相普及や被爆者支援」

分科会報告

神戸健康共和会 道上 拓史

被爆者に話を聞き、高校時代に「原爆の絵」を描いた卒業生(20代)の「作品が完成して終わりではなく、それをもって如何に多くの人たちに戦争について考え直すきっかけにすることが出来るのか、自分たちの使命」の言葉や、原爆被害者相談員の「原爆手帳の申請に当時、幼子だった方に当時の急性症状を教えて欲しいと求めるなどハードルが高い国の現状」などの報告があり、印象的でした。



広島



(子どもと一緒に参加)
子どもと一緒に考える
時間になった。

参加者からの
感想を一部
ご紹介します

なぜ核兵器を持つことが良くないのか自分なりに認識し、被爆者だけでなく私たちも声をあげていくことが大切だと実感しました。

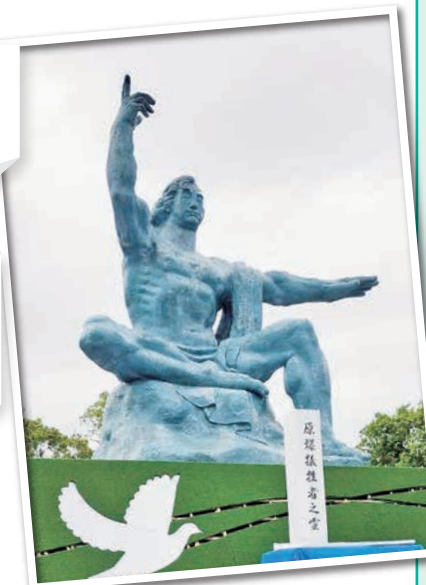
資料館で加害の歴史も
学ぶことができた。

被爆二世三世の声を
生で聴くことが
できた。

被爆者の方の「今日の
聞き手は明日の語り手」
という言葉が印象に残
りました。

核兵器は人も殺すが、
生きている人の心も殺
す兵器だと感じた。

被爆80年で今年の大会
は海外から220人参加
があり国際的な交流
ができた。



長崎

ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ
ノーモア・ヒバクシャ ノーモア・ウォー
長崎を最後の被爆地に！

兵庫民医連事務局 福岡 幸子

被爆者の平均
年齢は86歳、被
爆者の声をいつも
以上にしっかり聴
いて、継承してい
くことが、今年の
世界大会の重要
なテーマです。



98歳で爆心地の地図をしっかりと指し示しながら、「核兵器は絶対反対、だから生きている限り証言を続ける」と語ってくださった方。生き残った後の差別と貧困と孤独を抱え、心臓腫瘍で亡くなられた被爆者に寄り添った相談員のお話。家族全員無事だったが父親が母親に暴力をふるっており、父親を憎んでいたことを話された方。被爆者一人ひとりの人生があり、なに一つ同じ証言はないことに私たちは耳を傾けないといけません。そして、二度と同じ過ちを起こさないために、「長崎を最後の被爆地に」するために、決してあきらめずに声を上げ続けなくてはなりません。それが被爆者の思いを継承することだと私は理解しました。

さあ、みなさんも一緒に声を上げ続けましょう！

広島

民医連参加者交流集会報告

「原爆孤児として生きてきて」 山田 寿美子さん

神戸医療生協 宮田 享



山田さんは、原爆で両親を亡くされた原爆孤児であり、山田さん自身も被爆し、被爆者差別を受けたことは壮絶でつらい出来事だったと涙ぐみながらの報告でした。現在は被爆者の支援を続けていて、多くの被爆者はどんな病気にいつなるのか不安でしかたないと、原爆の恐ろしさ、悲惨さを語る山田さんの言葉一つひとつに重みがありました。

“原爆ドーム”その姿には声を失うとともに悲しみと怒りがこみ上げてきます。国同士の勝手な争いに罪もない人々が犠牲となる。その様子は10分ほど歩くと見える“広島平和祈念資料館”でさらに詳しく知ることが出来ました。当時の凄惨な状況、ご遺族の方が寄贈された被爆により亡くなられた方の身につけていたもの等、次世代につなぐべきものが「そこ」にはありました。

長崎



県連事務局次長着任のお知らせ



みなさん、はじめまして。8月1日付で神戸医療生協から移籍してまいりました事務の山根弘幸と申します。神戸医療生協では神戸協同病院や本部総務部、ひまわり診療所、医学対を経験させていただきました。民医連歴は約20年です。

プライベートでは山登りが趣味で、六甲山系を中心に普段は登って季節ごとの景色や絶景を楽しんでいます。また、メダカや河で採ってきた魚、カニ等の生き物を飼育するのも趣味です。家の中の水槽が増え、家族からはたまに迷惑がられますが、知らない間に名前を付けて呼んでいるところなどを見ると、楽しんでくれているのだと信じています。

兵庫民医連では教育、薬剤、検査、リハ、放射線、歯科の分野を担当させていただきます。まだ分からないことも多いですが、これまでの経験をいかして兵庫民医連の発展に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

緊急行動署名

2026年1月には
国会へ提出します



「地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持存続への支援を求める請願署名」スタート！

ポスターの掲示はお済でしょうか？安心して医療が受けられる社会を国に強く要望するための署名に取り組みましょう！



読者の声

●昨年8月に第3子を出産した娘が7月から職場復帰しました。京都なのでちょっと手伝うわけにもいかず手をこまねいています。猛暑の中頑張っている全ての子育て中の皆さんにエールを送ります。

神戸医薬研究所OB 村川美和子

●毎日毎日、暑い日が続いてますね。利用者さんたちに、水分補給してくださいねと、毎日毎日お伝えしています。

ケアセンターふれあい
松下公典

●選挙運動で色々な話を聞き、自分たちのお金など考えることが多くなりました。

ペンネーム ぴかちゅう

●本格的に暑くなり、毎日汗だくで働いてます。熱中症にならないように、水分や食事もしっかりとり、のりきりたいです。

ペンネーム ちこ

●ナニワ診療所の記事の尼崎中央三丁目商店街の「めでタイガー」がデジタルに!!以前はお店の方がゲーム終了後に、脚立にのって数字の紙を貼りがえていました。それを見るのが楽しみだったのですが…。

ペンネーム めめくん命

●先日、六甲森林植物園に行きました。山の上はしばし涼しく気持ち良く過ごせました。往復は暑くて大変！この暑さいつまで続くのか?!気が遠くなりそうですね！

ペンネーム ゆず

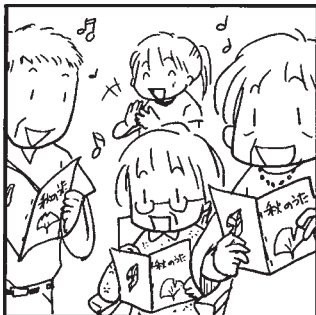
●夏です。暑いです。訪問中汗だくになって業務をこなしています。クーラーバックにネッククーラー、ネックファン等ありとあらゆる涼しくなるものを準備して、仕事に出発します。その準備で荷物が多くて朝からいつも大変です。早く寒くなってほしいです。

ヘルパーステーションあぼし
栗林由季

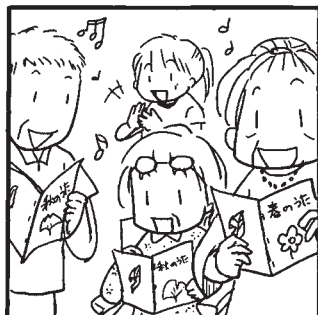
まちがいさがし 9・10月

正解者のうち5名の方に
図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求



【応募のきまり】

〈締切〉2025年10月8日（水）◇当選者は2025年11・12月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名（投稿はペンネームでも可）、院所名（職場・職種）、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
兵庫民医連ニュース「クイズ」係

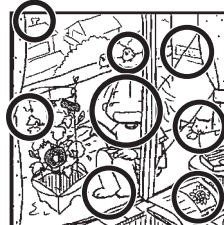
〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

7・8月号の応募者は7名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

- ①栗林 由季（ヘルパーステーションあぼし）
- ②松下 公典（ケアセンターふれあい）
- ③ち こ（ペンネーム）
- ④ゆ ず（ペンネーム）
- ⑤ぴかちゅう（ペンネーム）

7・8月号
の答え



法人 topics

たじま医療生活協同組合

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

訪問看護ステーション えがお

田中 舞さん

看護師

入職したきっかけ

元々、急性期病院で働いていましたが、病棟勤務に少々疲れたので一旦退職。「せっかく看護師免許があるんだから、色んな分野で働いてみたい」という思いが以前からあったので、訪問看護ステーションを次の就職先として探し始めました。その当時は、豊岡にある訪問看護ステーションを全く把握しておりません。豊岡に来た当初から、えがおの車が街中をよく走っているのを見ていて、訪問看護はここが有名なのか？と思って応募したのが入職のきっかけです。

仕事でのこだわり

利用者さんとその家族が安心してお家での生活が送れるために何ができるかを、一生懸命考えて日々訪問しています。

プライベート

あまり休みがとれないですが、休みの日は、夫と温泉に行くことが多いです。あとは、ハンモックでのヨガをして楽しんでいます。



たじま医療生活協同組合

創立30周年記念講演会

～たじま医療生協のこれまでとこれから～

たじま医療生協 本部事務局 春木 圭介



今年は、たじま医療生活協同組合創立30周年にあたります。6月21日、総代会に先立って、全日本民主医療機関連合会前会長で、

神戸健康共和会理事長の藤末衛先生に、「民医連ろっぽう診療所30年の意義とこれから」と題してご講演をいただきました。

藤末先生は、たじま医療生協設立準備の段階から30年以上にわたってご支援をいただいています。

先生から、目の前にあるたじま医療生協の課題と未来について、

- ①ろっぽう診療所は公立豊岡病院と地域の架け橋になる
- ②たじま医療生協は健康権を実現する住民運動のハブ

となる

- ③組合員は、平和と社会保障、助け合いの実践者となる
- という提案がありました。

民医連では、安心して医療を受けることができるように、地域医療の崩壊をくい止めるための「緊急行動」が提起されました。そのためには、医療機関同士との連携を深めると共に、共同組織から地域へ住民運動を広げていくことが大切です。

組合員・職員は、藤末先生が講演でお話しされたことを実践し、これからもたじま医療生協が民医連医療の一端を担っていけるように取り組んでいきたいと思っています。



2004年の水害では多くの方に支援に来て頂きました